

報道解禁は、9月14日午前10時でお願いいたします（下記参照）

報道関係各位

2013年9月12日
(公財)山階鳥類研究所
270-1145 千葉県我孫子市高野山115
Tel. 04-7182-1101, Fax. 04-7182-1106

アホウドリの小笠原再導入

人工飼育個体とつがいになって産卵したメスは 尖閣諸島生まれである可能性が高いことが示唆されました

山階鳥類研究所では、絶滅危惧種アホウドリのいっそう確実な復活のため、伊豆諸島鳥島のアホウドリのヒナを小笠原諸島聳島に移送し、新しい繁殖地を形成する事業に取り組んでおります。人工飼育により巣立った個体（雄）と野生個体（雌）との間で2012年11月14日に初めて産卵された卵について、ミトコンドリアDNAの塩基配列を分析した結果、アホウドリのふたつあるクレード（単系統群）のうち、主として尖閣諸島に分布する個体からなるクレードに属することが泉洋江氏（北海道大学理学部）・江田真毅氏（北海道大学総合博物館）との共同研究により判明しました。この結果、人工飼育個体とつがいになって産卵した雌は尖閣諸島で生まれた個体の可能性が高いことが示唆されました。

この結果は、「聳島の再導入コロニーで初卵を産んだアホウドリの母系系統」（泉洋江（北大・理）・江田真毅（北大・博）・出口智広（山階鳥研）・尾崎清明（山階鳥研））として、日本鳥学会2013年度大会（名城大学天白キャンパス（名古屋市））で9月14日10時に発表しますので、その時刻以前の報道はお控えいただきますようお願いいたします。

※この事業は、(公財)山階鳥類研究所が、環境省、東京都、米国魚類野生生物局、三井物産環境基金、公益信託サントリー世界愛鳥基金等の支援を得て実施しているものです。

・産卵したつがい

雄：2008年に巣立った個体（カラーリング番号Y01）

雌：野生個体（足環なし）

・産卵の状況

2012年11月14日 NHKと山階鳥類研究所が共同で設置している監視カメラにより産卵を確認。

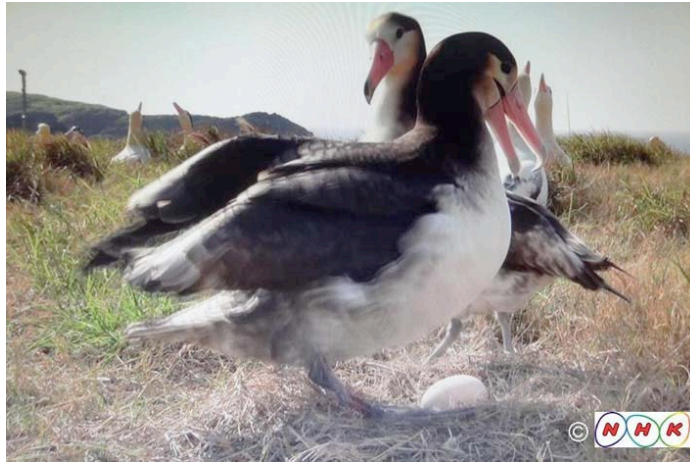
2013年1月17日 孵化予定日に研究員が卵を調査し、発生が進んでいないことを確認し回収。

この発表についての問い合わせ先

(公財)山階鳥類研究所 保全研究室
尾崎清明

Tel. 04-7182-1107, Fax. 04-7182-4342

E-mail: ozaki@yamashina.or.jp



人工飼育個体（Y01, 手前）と今回尖閣諸島生まれと示唆された雌（足環なし）。足元にあるのが今回分析した卵。〈写真提供：NHK（画像のデジタルデータをご希望の方はご連絡ください）〉

【参考】

アホウドリ個体群の遺伝的特性

近年の分子遺伝学的研究によって、次のことが明らかになっている。

- (1) アホウドリには大きく離れた二つのクレード（単系統群；以下、クレード A と B とする）に属する個体がいる。
- (2) 尖閣諸島にはこのうちクレード A に属する個体のみがいる。
- (3) 鳥島生まれのヒナはクレード B に属する個体が主体だが、クレード A に属する個体も約 7% いる。

尖閣諸島におけるアホウドリの生息状況

尖閣諸島には 19 世紀に多数のアホウドリが生息していたとされるが、19 世紀末に羽毛採取のために多数が捕獲された結果、生息が確認できない状況が長く続いていた。その後、1971 年に南小島での生息が再発見された（池原貞雄氏）。その後、2001～2002 年の繁殖期に北小島でも 1 つがいの繁殖が東邦大学の長谷川博教授により確認された。長谷川教授の試算によれば、2005 年の産卵期時点での尖閣個体群の総個体数は 300～350 羽と推定されている（長谷川 2006）。

アホウドリ (*Phoebastria albatrus*)

ミズナギドリ目アホウドリ科

特別天然記念物

国内希少野生動植物種（種の保存法、1993 年指定）

絶滅危惧 II 類（環境省レッドリスト 2006）

分布及び個体数

- ・ 繁殖地は、日本の伊豆諸島鳥島と尖閣諸島
- ・ 非繁殖期には、北太平洋のベーリング海やアリューシャン列島、アラスカ沿岸まで移動する。
- ・ 1949 年の調査で一度絶滅したと考えられたが、1951 年に約 10 羽が鳥島で再発見された。1971 年には尖閣諸島で少数の生息が再発見された。
- ・ 減少原因は、1890～1900 年代に羽毛採取のために大量に捕獲されたことによる。
- ・ 保全上の成果などもあり、現在個体数は約 3,200 羽まで回復したと推定されている。

形態及び生態

- ・ 成鳥は全長が 84～94cm。
- ・ 成鳥は全体に白く、風切羽や尾羽が黒い。頭部は淡黄色。ヒナから 2 歳ごろまでの若鳥は全身黒褐色

で、成鳥羽になるまでは7～8年かかる。

- ・ 繁殖期は10月～翌年5月。
- ・ 巣立ち後3～4年で巣立った場所に帰ってくる。7歳前後から繁殖に参加するが、巣立った場所で繁殖を行う傾向が強い。

アホウドリの小笠原再導入

現在、アホウドリのふたつの繁殖地のうち、伊豆諸島鳥島は活火山であり、万一噴火があった場合には、アホウドリの個体群に大きな影響が出る可能性がある。もうひとつの繁殖地である尖閣諸島は、繁殖状況の調査や保護活動を行うのが難しい現状である。このため、過去にアホウドリが繁殖していたことが知られている場所から、1カ所を選んで、アホウドリの営巣地を復活させることで、本種の復活を一層確実にすることが望ましいと考えられた。このために山階鳥研では、生まれた場所に戻って繁殖する同種の習性を利用して、ヒナの移送により小笠原群島鴛島にアホウドリの繁殖地を作ることとした。2008年から2012年の5年間に合計70羽のアホウドリのヒナを鳥島から鴛島に移送して人工飼育し、69羽を巣立たせた。鴛島の飼育地には2009年から野生のアホウドリの飛来が観察されるようになり、2011年からは人工飼育した個体の帰還が認められた。2012年11月14日に2008年に巣立ちした人工飼育個体（カラーリング番号Y01、雄）と野生個体（足環なし）の間に初めて産卵が確認された。この事業は、（公財）山階鳥類研究所が、環境省、東京都、米国魚類野生生物局、三井物産環境基金、公益信託サントリー世界愛鳥基金等の支援を得て実施している。

(以上)